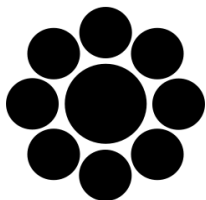


<発行>2017年3月  
 熊本県東京事務所  
 くまもとセールス課  
 〒104-0061  
 東京都中央区銀座5丁目  
 3-16 銀座熊本館3階  
 ☎03-3572-5021  
 (銀座熊本館HP)  
<http://www.kumamotokan.or.jp/>



加藤家改易後、細川家3代細川忠利公が熊本城に入城し、初代藩主として肥後五十四万石を治めました。以来11代、およそ240年にわたり熊本を統治。文武に秀れた名家として、歌道、茶道、儀礼にも卓越した見識を持つことで知られます。現在も脈々と伝わる「細川家の歴史と文化」が、ゆかりの地東京と熊本に色濃く残ります。

## 緑の地を辿る 東京の中のくまもと「細川家」編



細川家の九曜紋

細川家の初代藩主・細川幽斎(藤孝)に始まり、足利、織田、豊臣、徳川に仕え、天皇家の和歌の師として知られます。二代忠興は、千利休の高弟でもあり茶道を極めました。妻はガラシャ夫人。三代忠利が肥後藩主となり、幕末まで統治しました。明治になり細川家は侯爵家となり、現在まで脈々と継承されています。江戸時代の上屋敷、中屋敷、下屋敷跡や墓所、細川家の美術工芸品コレクション「永青文庫」など、文武両道を育んだ栄華が、東京・熊本で偏在しています。

えいせいぶんこ

## 永青文庫

江戸川橋



江戸川橋より  
徒歩約15分

### 「細川文化が華ひらく、栄華の殿堂」

文京区の閑静な一隅に建つ「永青文庫」は、江戸時代から戦後にかけて細川家の下屋敷跡で、現在の建物は、旧細川侯爵家の家政所(事務所)として昭和初期に建設されたものです。第16代当主・細川護立侯が昭和25年に設立。約6千点の美術工芸品(国宝8点、重要文化財32点を含む)、古文書や書籍、甲冑や刀など、細川家伝来の文化財と護立コレクション約10万点もの資料が収蔵されています。現在は、一般公開され、企画展など開催。静かな佇まいの中で、往時の栄華が偲べれます。



「熊本城—加藤清正と細川家」展  
 ●3月18日(土)~6月4日(日)開催

### 「旧細川侯爵邸」

和敬塾本館(旧細川侯爵邸)は、細川家第16代細川護立侯により昭和11年に建てられた、昭和初期の代表的な華族邸宅です。昭和30年男子学生寮として、前川喜作氏により「公益財団法人和敬塾」が設立され、塾生の知育・徳育の場として現在も大切に保存され、活用されています。東京都有形文化財指定(立ち入り禁止です)

## わけいじゅく 和敬塾本館

江戸川橋



写真提供: unison 赤間剛夫



# 旬館だより

まってるモン!

細川家  
特集号

## 銀座熊本館

GINZA  
KUMAMOTOKAN

細川コレクション

## しょうせいかく 松聲閣

肥後細川庭園  
江戸川橋



写真提供: 肥後細川庭園

江戸川橋駅より  
徒歩約15分

### 「細川家の学問所・住まいが一般公開」

文京区にある「永青文庫」と隣接して整備された「肥後細川庭園」(平成29年3月18日「新江戸川公園」から改称)。細川家の下屋敷跡で、敷地内に残る松聲閣は、明治時代細川家の学問所として建設され、一時期は細川家の住まいとしても使用されていました。永青文庫の石造りの門を潜り抜け、木々に囲まれた斜面を下りると、池と樹木が美しく整備された広々とした庭園が望めます。灯籠や剪定された松の木など、明治から変わらぬ日本庭園の風情が四季折々に楽しめます。

### 「肥後細川庭園」

春夏秋冬、美しい表情を見せてくれる庭園には、肥後六花のうち、肥後椿、肥後芍薬、肥後花菖蒲、肥後山茶花を観ることができます。



写真提供: 肥後細川庭園

※肥後六花とは…約200年前、細川重賢公が有用植物の栽培をきっかけに、武士の園芸として受け継がれてきたもので、肥後菊、肥後椿、肥後山茶花、肥後花菖蒲、肥後朝顔、肥後芍薬の6つを呼びます。

### 「丸の内界隈に上屋敷跡」

丸の内界隈は、江戸時代大名屋敷が立ち並び、細川家の上屋敷がありました。現在の丸の内オアソのエントランスホールには、細川家屋敷の柱、壁、扉などの配置が表されています。

## 細川家 主な ゆかりの地

東京都内

### 「目黒、品川区に下屋敷跡」

泉岳寺の近く、赤穂浪士四十七士のうち大石内蔵助ら十七士は、処遇が決まるまでの間ここに預けられ、細川家は客人として厚遇したと言われます。目黒雅叙園の辺りにも下屋敷があり、時を経て大きく変わりました。

### 「鷹狩りやきじ狩り、茶会等を行う別荘風」

戸越公園は、肥後新田藩主細川利重が下屋敷として拝領し、大名屋敷を代表する数寄屋造りと庭園からなる戸越屋敷でした。庭園の一部が、現在の戸越公園です。鷹狩りやきじ狩り、茶会等を行う別荘風の邸宅で、池を中心に回遊式庭園は、東海道五十三次の庭とも言われていました。

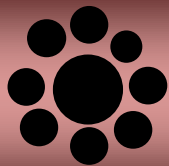
## 細川家 墓所

新馬場駅

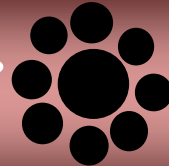
### 「細川家菩提寺」

品川神社の近くにある細川家の墓所。4代光尚が1643年に菩提寺として建立した妙解院があった場所で、現在6代宣紀、7代宗孝、8代重賢、11代斎樹、12代斎護、13代邦邦、14代護久の7人の藩主をはじめとする一族が眠っています。

新馬場駅北口徒歩1分



# 永青文庫

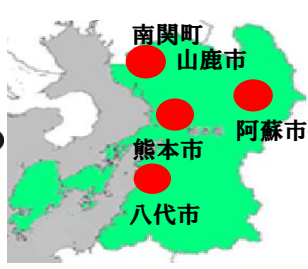




加藤家の後、豊前小倉城主から、肥後領主として入国した細川家3代忠利公。文武両道の家風は、脈々と守り伝えられ、芸術に対する深い造詣と独自の様式美は、その後も肥後文化の根源をなしています。晩年の宮本武蔵を召し抱え、二天一流が伝えられ、父忠興公が千利休の直弟子だったことにより、質実剛健の肥後古流の茶道文化、肥後六花や肥後象嵌など「細川文化」が昇華しました。今も、熊本の地で大切に生き続けています。



くまもと再発見の旅



©2010熊本県くまモン

細川忠利公 肥後藩主となる「熊本の細川家」

リムジンバス(約50分)

阿蘇くまもと空港

熊本交通センター

熊本市内は市電やしろめぐりんをご利用ください

※所要時間は目安です。時間帯や曜日によって異なります。

肥後 入国

熊本市

「謹んで肥後五十四万石の領地を拝領いたします」

肥後五十四万石の初代藩主となった細川忠利公は、加藤家に礼を尽くした政策を行ったと言われ、240年にわたり細川家による熊本統治は続きました。城郭から見学下さい。城内には入れません。

熊本城



水前寺 成趣園

細川家が三代にわたり造園した桃山式回遊庭園で、熊本を代表する水前寺公園。阿蘇の伏流水が湧き、東海道五十三次を模しています。



古今伝授の間

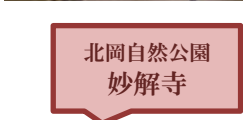
桂宮智仁親王の書院・茶室で京都御所に建っていたものを移築し、初代幽齋公が、智仁親王に「古今和歌集」の奥義を伝授した部屋です。



立田自然公園 泰勝寺



北岡自然公園 妙解寺



熊本県立 美術館

細川コレクション 常設展示室

熊本城二の丸公園に佇む「熊本県立美術館」。細川コレクション常設展示室が別棟と本館2階第一室に分かれ常設展示と特別展示を合わせた「細川コレクション展」が開催されています。休館日/月曜日

手前は清正時代の石垣で、上に行くほど急勾配で乱積み、奥は細川時代の急勾配の石垣で算木積み。武者返しの「二様の石垣」は、熊本城のビューポイントです。



旧細川 刑部邸

残念ながら、現在は見られません。



休館中

忠利の弟、刑部少輔興孝がお茶として建て、江戸時代の上級武士の生活や文化が偲べれます。

細川家菩提寺。初代幽齋夫婦と二代忠興とガラシャ夫人の「四つ御廟」をはじめ、藩主の墓と武蔵供養の塔、奥には、茶室「仰松軒」が佇んでいます。



天草島原の乱後、55歳で死去した忠利公の菩提を弔い、4代から9代までの墓が並びます。

県内 主な 足跡

阿蘇

ふたえ 二重の峠石畳



細川藩の参勤交代の行列は、江戸～大阪～大分鶴崎～阿蘇内牧ルートの豊後街道を利用しました。この的石で休憩し、石畳みの道を通り二重の峠を越え、熊本へ向かいました。昔日の面影を残しています。

阿蘇 的 石茶屋跡



南関 御茶屋跡

豊前街道にある御茶屋跡で、参勤交代の藩主の休憩、宿泊所として用いられた建物。九曜紋の鬼瓦など、細川家とのゆかりが偲べます。



(国指定史跡)

くまもとの細川文化

しょうだい 小代焼

県の北部小袋山麓で約400年前から作られている、熊本を代表する陶器です。肥後藩の御用窯として、代々伝統を受け継がれてきました。藁灰、木灰の釉薬が流し込まれた力強い作風です。



こうだ 高田焼



約370年前の歴史を持つ熊本を代表する焼物で、細川藩代々の御用窯です。青磁に白い象嵌で模様が施され、緻密な細工がとても美しく高貴な陶器です。八代日奈久で作られています。



熊本県伝統工芸館

熊本城の傍に位置し、くまもとの匠の技や、脈々と受け継がれてきた伝統工芸品の数々を展示販売しています。

ひごそうがん 肥後象嵌



肥後藩主として入国した忠利公に、鉄砲鍛冶として召し抱えられた林又七が、鉄砲の銃身や刀剣の鏢に装飾として象嵌を施したのがはじまりと言われます。全国的にも「肥後金工」として高く評価されています。

辛子蓮根

体が弱かった忠利公の滋養のため考案されました。レンコンの切り口が、細川家の九曜紋にも似ています。



本丸御膳

辛子レンコンをはじめとした熊本の郷土料理「本丸御膳」。熊本城本丸で提供していましたが、現在「青柳本店」でお召し上がりいただけます。



トピックス

宮本武蔵も熊本へやってきました！

霊巖洞

忠利公は武芸にも熱心で、1640年剣豪宮本武蔵を熊本へ招き、武蔵は晩年を熊本で過ごしました。有名な「五輪の書」を著したと言われる「霊巖洞」や参勤交代道の道筋に「武蔵塚公園」、泰勝寺に武蔵供養塔があります。「五輪の書」を著しました。



武蔵塚公園



武蔵に関する資料が多く展示されている「島田美術館」。



肥後

細川家